

石ころひとつをしげしげ見つめて、地球を考えよう。



火の国阿蘇の  
恵みのブランド

然  
zen  
A s o C i t y

科学少年の好奇心と、  
アカデミックな分析力が同居する池辺伸一郎さんは、  
阿蘇火山博物館のチャージングな館長だ。

大学では地球物理学を専攻し、地震を研究していくつもりだったが  
成り行きで同博物館に携わることになる。

火山への思いがさほど深くはなかった。

が、赴任してまもなく、火口を見る機会がおとずれて一変した。

夜の闇を切り裂く炎、火山ガスが燃える火炎現象を目撃する。

地球の生の火だ。

「感動というより、底知れぬ寒気のようなものをおぼえました」

以来、阿蘇山がライフワークとなる。

「地球科学とは、地球との対話です。といつても大げさなことではなく」

足元の石ころひとつを観察し、考え、

想像の翼を広げることだと館長は言う。

なぜ、こんな形なのだろう、なぜ、ここに落ちているのだろうかってね。

科学少年のように微笑み、物理学者のように鋭い。

阿蘇火山博物館 池辺伸一郎

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。